

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772402307
法人名	株式会社 おだやか
事業所名	グループホーム おだやか村野
訪問調査日	平成 21 年 8 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 5 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772402307
法人名	株式会社 おだやか
事業所名	グループホーム おだやか村野
所在地	大阪府枚方市村野本町18番17号 (電話) 072-805-0700

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】(21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	24 人	常勤	4 人, 非常勤 20 人, 常勤換算 16.0

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	4 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	19,200 円	
敷 金	有(円)	無○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,800 円	

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 78 歳	最低	66 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)松徳会松谷病院、谷口クリニック、たかはま歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームおだやか村野」は、京阪交野線村野駅から府道7号線を南東へ徒歩約3分と非常に便利な処にありながら、緑豊かな田園風景の中に行む。当事業所は「(株)おだやか」の代表者が5年余り前の平成16年に、叔母の経営するグループホームを手伝う中で施設の必要性を痛感、自らも高齢者の自立支援を決意し当施設を設立した。この事業所の特徴には、職員を育てる取り組みと、工夫された外出支援や楽しみごと気晴らしの支援などが挙げられる。職員自身の自主的な研修会参加にも交通費と上限5,000円の補助金制度が設けられている。また、利用者の外出支援や楽しみごと気晴らしの支援にも、外食・モーニング喫茶・弁当を持つての散策・趣味の支援とバラエティーに富んだ支援が季節に応じて用意されている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善課題は、(①地域との交流を密にすること②プライバシーの確保の徹底で言葉遣いに関する事③利用者一人ひとりのペースを大切にすること)である。事業所では、同じマンションに住む人や近隣の人々と、あらゆる機会を利用して交流を図ったり、言葉遣いにはミーティングの度に確認や注意をしあったりしている。また、一人ひとりの生活リズムも大切にされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価の意義を職員に伝え、自己評価は全員で行い、評価を活かした改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は地域包括支援センター職員、地域住民代表、利用者家族等、事業所管理者・職員で構成され、2ヶ月に一度開催されている。そこでは事業所からの報告のほか参加者から質問、意見、要望等を受けるなど双方向的な会議がされ、そこで出された意見をサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の訪問時には、何でも言える雰囲気作り心がけている。また意見箱も設置し、出された意見要望等はミーティングで話し合い、それらを運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りに参加したり、同じマンションの人々とお話をしたり、散歩の途中で出会った近所の方々と仲良くなるなど、出来るだけ機会をとらえて地域の方々と交流することに努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として、(1, 人間の尊厳を大切にしたいケアをいたします。2, その人らしい生活を尊重しながら暮らしていただきます。3, 地域や家族の方と共存していくグループホームを目指します。)を掲げ地域生活の継続を支える柔軟な支援を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	普段、誰もが目に付きやすいところ、玄関やユニット毎のスタッフルームの壁に理念を掲示して、目にする度に唱和し確認しあうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに参加したり、同じマンションの人々とお話をしたり、散歩の途中で出会った近所の方々と仲良くなるなど、出来るだけ機会をとらえて地域の方々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を職員に伝え、自己評価は全員で行い、評価を活かした改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は地域包括支援センター職員、地域住民代表、利用者家族等、事業所管理者・職員で構成され、2ヶ月に一度開催されている。そこでは事業所からの報告のほか参加者から質問、意見、要望等を受けるなど双方向的な会議がされ、そこで出された意見をサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所担当窓口や地域包括支援センターへは、事業所の実情やサービスの取り組み方など困ったことなど折に触れ相談に出向き、関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者本人の暮らしぶりや家族のことについて話し合うほか、毎月一回月初めに通信に手紙を添えて、金銭出納簿の写しと共に個々にあわせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には、何でも言える雰囲気作りに心がけている。また意見箱も設置し、出された意見要望等はミーティングで話し合い、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎の職員は固定され、馴染みの職員が継続的に利用者支援できる仕組みになっている。この1年間も異動は全くない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成を重視し、研修の機会を見つけては参加を促している。また、職員が個人的に参加する研修会や講座にも交通費と上限5,000円の補助金制度が設けられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内に7グループのネットワークが出来ていて、年間3回交流会や学習会を持つことによってサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの利用ではなく、家族等と事業所へ遊びに来るなど本人が徐々に馴染みながら納得した上で利用できるようにしている。一泊二日の体験入所も用意されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人を介護される一方のみの立場におかず、本人から料理や作法を教わるなど、共に学び支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴のほか日々の関わりの中から、本人がどこで、どのように暮らしたいか、何をしたいかなど意向の把握に努めミーティングで意見交換しスタッフ全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	2ヶ月に一度、カンファレンスを行っている。介護計画については本人や家族等と話し合い、気づきや意見、アイデアを反映しながら利用者本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングによる介護計画の見直しをしている。毎日の介護記録により状態に変化が生じた場合は、随時家族等や医療関係者と連絡を取りながら見直しをしている。介護計画書には家族の署名捺印がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望により職員による外出や入院、退院の支援をしている。かかりつけ医への通院の付き添いや送迎の支援なども柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関から月2回の往診を受け入れている。その他、利用者本人や家族等の希望により、かかりつけ医への受診の送迎もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について「重度化した場合における対応に関する指針」の文章により説明をして家族等と同意書を交わし、関係者全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で利用者一人ひとりの誇りやプライドを損なわないように、普段の何気ない言葉掛けにもその対応に配慮している。また、ミーティングにおいても常に個人情報やプライバシーの保護の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人のその日の体調に合わせた無理のない生活リズムの支援が行われている。居間のソファに横になったり、おしゃべりをしたりするなど、ゆったりとした生活が見られた。食事の時間や入浴の時間も一人ひとりのペースが大切にされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の切り方を職員と楽しく話し合いながら手伝ったり、準備や後片づけなど利用者一人ひとりの力を活かした支援がされている。しかし食事場面は利用者の介助に徹し、利用者と職員と一緒に食事をする家庭的な雰囲気は見られなかった。	○	食事介助や誤嚥の見守りに徹していて、利用者と共に食事をする家庭的な雰囲気が見られない。同じ食事を共に楽しむことはグループホームの大切な支援の一つである。ぜひ、共に同じ食事を共に楽しむ家庭的な雰囲気を作るようにしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上の入浴支援が行われている。職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの体調や希望に合わせて時間帯の他シャワー浴など入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり食事の準備をするなど、生活歴を活かした役割支援の他、ゲートボールやカラオケなど楽しみごと、気晴らしの支援もしている。趣味の編み物で座布団カバーを作る利用者に対する楽しみごとの支援も見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や利用者の気分によって、近くの川の土手を散策し草花を楽しんだり近隣の人々との会話を楽しんだりするなど、戸外に出かけられるよう支援をしている。その他、外食で回転寿司屋へ行ったりモーニング喫茶へ出かけたり、時には弁当を持って市民の森へ出かけたもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、居間から玄関までの見渡しが出来なかったり、事業所のすぐ前に府道があり車の往来が多いので危険防止のため玄関は施錠されている。	○	日中、鍵を掛けられ自由に外へ出られない利用者の立場に立って考え、見守りの出来る時間帯を作り出し鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練を消防署の助言指導により年2回行っている。防災マニュアルにより職員にも徹底を図っている。日頃より同じマンションの住民にも交流を深めながら協力が得られるよう働きかけている。消火管理者も決められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者より栄養管理された食材を購入し、バランスの良い献立が確保されている。見やすい介護記録で水分量・栄養摂取量・排泄などのチェックがされていて、細やかな支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の居間には利用者の制作した四季の色紙が貼られていたり、しるしの付けられた高校野球の組み合わせ表が掲示されていたりするなど、生活感や季節感に溢れた楽しい雰囲気が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や小物、写真などが置かれていて、その人らしい生活空間が保たれている。居室入り口には色分けされた名札で場所の見当識支援への配慮も見られる。		